

1、大会結果

<sprint relay>

1. **SUI Switzerland 55.27** SUI9154 Jenzer Sarina 14.51 (1)
SUI8903 Hubmann Martin 12.16 (1) 27.07 (1)
SUI9153 Gross Julia 15.41 (4) 42.48 (1)
SUI9006 Kyburz Matthias 12.39 (1) 55.27 (1)
 2. **SWE Sweden 56.37 + 1.10** SWE8856 Strand Lina 14.54 (2)
SWE9202 Högstrand Johan 13.34 (9) 28.28 (2)
SWE9154 Ohlsson Karolin 15.23 (1) 43.51 (2)
SWE9104 Ridefelt Albin 12.46 (5) 56.37 (2)
 3. **CZE Czech Republic 57.14 + 1.47** CZE9351 Horčíčková Vendula 15.44 (7)
CZE9005 Nykodým Miloš 13.11 (6) 28.55 (5)
CZE8656 Šístková Iveta 15.36 (3) 44.31 (4)
CZE8804 Král Vojtěch 12.43 (3) 57.14 (3)
- JPN Japan MP** JPN9056 Yanagawa Azusa MP 約 130%
JPN9103 Osaki Hirokazu 13.46 (12) 112%
JPN9351 Miyakawa Saho MP 約 140%
JPN9206 Shimbo Yoichi 14.42 (21) 120%

コースの難易度は日本の公園などにある走力勝負のスプリントとほとんど変わらなかった。公園が8割で市街地2割の比較的簡単なコースでした。対応は日本でも十分できると思いました。ただ、今回スプリントリレーが初めて行われるということでテストレースというものが事前に行われましたが、Quarantine から pre-start まで隔離されゴール後も隔離されるという仕組みに私もなれておらず初めてのことでした。

日本チームの成績は女子が2人とも失格という残念な結果でした。柳川さんは隣接コントロールに引っかかり、宮川さんは会場エリアにあるラスポを飛ばすという形での失格でした。

タイムとしては男子は尾崎が112%、真保が120%といい走りをしていました。女子は失格となりましたが、速報でのタイムではトップ比が柳川さんが130%、宮川さんが140%と単純な走力に課題も残る結果でした。スプリントの為に走力推薦なりを使って選考することも必要ではないかということを実感しました。

<long>

<MEN>

1. Tranchand Frederic FRA 79.14
2. Kyburz Matthias SWI 81.03
3. Kyburz Andreas SWI 82.30
56. Matsushita Mutsuki JPN 103.19 130%
57. Hosokawa Tomoki JPN 104.10 131%
80. Togami Naoya JPN 129.37 164%
82. Takahashi Yuki JPN 133.37 169%

<WOMEN>

1. Sund Goril Ronning NOR 68.06
2. Aebi Bettina SWI 72.29
3. Knapova Jana CZE 72.52
74. Moriya Maika JPN 110.05 162%
77. Takahashi Mie JPN 114.05 168%
79. Watanabe Ayako JPN 119.40 176%
84. Sunada Risa JPN 130.48 192%

ロングもむしろ日本のような山で対応すること自体は問題ないテレインでした。タフなテレインでタフなコースだったのでさすがロングだなという印象でした。松下、細川は初めての海外レースにもかかわらずうまくレースをまとめて良いタイムで2人とも130%で走り切っていました。トップの選手はWOCなどでも活躍している選手なので今後の可能性も示してくれる結果だと思います。ほかの選手は160%越えとミスをたくさんしたこともあるとは思いますが、タフなロングコースを最後まで走り切れなかった結果のように感じています。

<sprint>

<MEN>

1. Kyburz Matthias SUI 14.13,8
1. Hubmann Martin SUI 14.13,8
3. Tranchand Frederic FRA 14.16,8
42. Osaki Hirokazu JPN 16.57,3 119%
43. Shimbo Yoichi JPN 16.59,8 119%
74. Matsushita Mutsuki JPN 18.15,6 128%

84. Togami Naoya JPN 19.18,3 136%

< WOMEN >

1. Ohlsson Karolin SWE 14.09,8

2. Denisova Anastasia BLR 14.29,0

3. Roos Elena SUI 14.39,0

74. Sunada Risa JPN 21.10,5 149%

85. Moriya Maika JPN 34.08,5 241%

Yanagawa Azusa JPN DISQ

動物園の中を通過するアップ率5%もあるスプリントということで非常にユニークなスプリントでした。中盤に一つ勝負レッグがあり短時間では読み切れないほどコンタの数が複雑で脱出でレッグ線方向は後々すごい登りがあり別ルートは距離は長いがゆっくり下っていくというどちらが早いのかじっくり読んでも複雑なコースでした。日本チームは男子は真保と尾崎が119%とまずまずの走りを見せてくれました。2人とも勝負レッグやほかの細かい所でミスをしていたようでまだまだタイムを伸ばせるところはあるようでした。前日にロングを走った選手にはなかなかタフだったようです。女子は守屋さんはパラレルエラーからくる現在地ロストのため大きくミスをして残念でした。また柳川さんはスプリントリレーに続いて失格でした。隣接の男子のコントロールを押ししたようです。

<middle>

< MEN >

1. Ridefelt Albin SWE 31.44

2. Basset Lucas FRA 32.20

3. Petrzela Jan CZE 32.32

63. Osaki Hirokazu JPN 40.27 127%

80. Shimbo Yoichi JPN 43.07 136%

86. Hosokawa Tomoki JPN 45.12 143%

101. Takahashi Yuki JPN 53.51 170%

< WOMEN >

1. Jenzer Sarina SUI 30.48

2. Sistkova Iveta CZE 31.36

3. Sund Goril Ronning NOR 31.42

3. Vercellotti Lea FRA 31.42

76. Takahashi Mie JPN 45.35 148%

77. Miyakawa Saho JPN 45.38 148%
 91. Watanabe Ayako JPN 58.49 191%
 92. Yanagawa Azusa JPN 58.50 191%

ミドルは平らで地形があまりないトレインで倒木などもそれほどないので非常に走りやすいスピードの出るところなのですが、ミドルでは半分以上BやCのヤブのあるエリアを通しておりスピードを出すことやさらにナビゲーションをすることを難しくさせるコース設定でした。海外選手の多くはやぶをもろともせずやぶい所での動きについていけないという話を選手から多く聞きました。逆にAの林では日本もそれほどパフォーマンスは変わらないという話も聞きました。

そんな中、日本チームはというと男子は尾崎選手が 127%の快走を見せました。女子も高橋、宮川の両選手が 148%とまずまずの成績だったように思います。

<relay>

<MEN>

1. SWE A	Andersson Rasmus	30.54(1)	93.30
	Ridefelt Albin	31.50(4)	
	Sjoberg Oskar	30.46(1)	
2. CZE A	Nykodym Milos	32.34(10)	93.56
	Petrzela Jan	30.22(1)	
	Kral Vojtech	31.00(2)	
3. SUI A	Kyburz Andreas	31.31(3)	94.20
	Kyburz Matthias	30.39(2)	
	Hubmann Martin	32.10(5)	
22(32). JPN A	Osaki Hirokazu	44.30(41)	127.28
	Hosokawa Tomoki	43.17(36)	
	Shimbo Yoichi	39.41(28)	
(35). JPN B	Matsushita Mutsuki	39.23(36)	136.07
	Takahashi Yuki	47.36(37)	
	Togami Naoya	49.08(35)	

<WOMEN>

1. SWE A	Forsgren Lilian	30.13(1)	91.29
	Karlsson Helena	30.52(7)	
	Strand Lina	30.24(3)	
2. CZE A	Horcickova Vendula	31.13(5)	91.44

		Knapova Jana	30.51(6)	
		Sistkova Iveta	29.40(2)	
3.	FIN B	Nyiittynen Mia	31.16(6)	92.38
		Nurmi Kirsi	30.13(2)	
		Sianoja Maija	31.09(6)	
21(28).	JPN A	Takahashi Mie	44.39(32)	140.23
		Miyakawa Saho	50.09(30)	
		Moriya Maika	45.35(25)	
(30).	JPN B	Yanagawa Azusa	50.33(34)	174.58
		Sunada Risa	65.12(32)	
		Watanabe Ayako	59.13(29)	

リレーもミドルとほぼ同じトレインで走りやすく序盤にやぶのエリアに入りそこでミスしてしまう選手が多かったように思います。

全体を見ると今回のチェコのトレインは対応しやすく日本人でも力を出しやすい所だったと思います。男子は予想よりもいい成績を残し今後の可能性も見せてくれたように感じました。走りやすいトレインではフォレストで120%を切ることが目標になるのかなと思いました。女子はもっと戦えると思っていたのですが、トレーニングの基本的なところからの改良というところが課題だと思いました。選手層の厚さなどを考えると女子の競技力向上を今後どうしていくのかということが、難しいと感じました。

2年後は1986年のユニバー、2009年のWOCが開催されたハンガリーのMISKOLCです。WOCの開催地をたどっているような感じになります。

2、ユニバーに向けた今後の体制について

強化の方針としては技術委員会としては学生全体を学連合宿などを通じて技術力の向上を頑張っていくしかないと思います。今回選考会後のJOA合宿ではユニバー代表選手はどの合宿でも全員そろそろことなく中にはほとんど参加できない選手もいました。選考会後の何か月かでは強化するのもある程度しかできないのでそれまでに継続的に頑張ってもらいたいと思います。なので、やはり各自の取り組みに任せるしかないというのが現状です。

3、セレクションについて

今回スプリントリレーを見てスプリントに対する比重の大きさに気づきました。今年はフォレストレースのセレクション1本ではっきりと分かる形ということを目的に行いましたが、実際の本番のトレインとはタイプが全然違ったりしました。スプリントに関してはそれ用にセレクシ

ンを開催するのかもしれない。もしくは女子に関しては走力のみでも推薦で選ぶといった新しい選考の形を考えていきたいと思っています。

4、今後の課題について

2年後やさらに後に向けてどういったことに取り組んでいくべきかということに関しては、どう強化していくかということも大事ですがまずはどう広くユニバーを目指す人を増やすかといったことが課題のように感じました。学生全体を見ても十分目指せる実力がある人でも世界大会ということに興味がない人が増えているように思います。身近な先輩や友達がJWOCなどに参加しているのを見て自分も参加してみたいと思ったりすることが最初のきっかけのように思いますが、最近はそれも少なくなってきたように思います。

昨年度から学生からいろいろ意見をいただきユニバーに関しては今後学連合宿などで簡単な報告会やPR活動などをしていくことでよりユニバーに対する広報活動的などところをしていくつもりです。